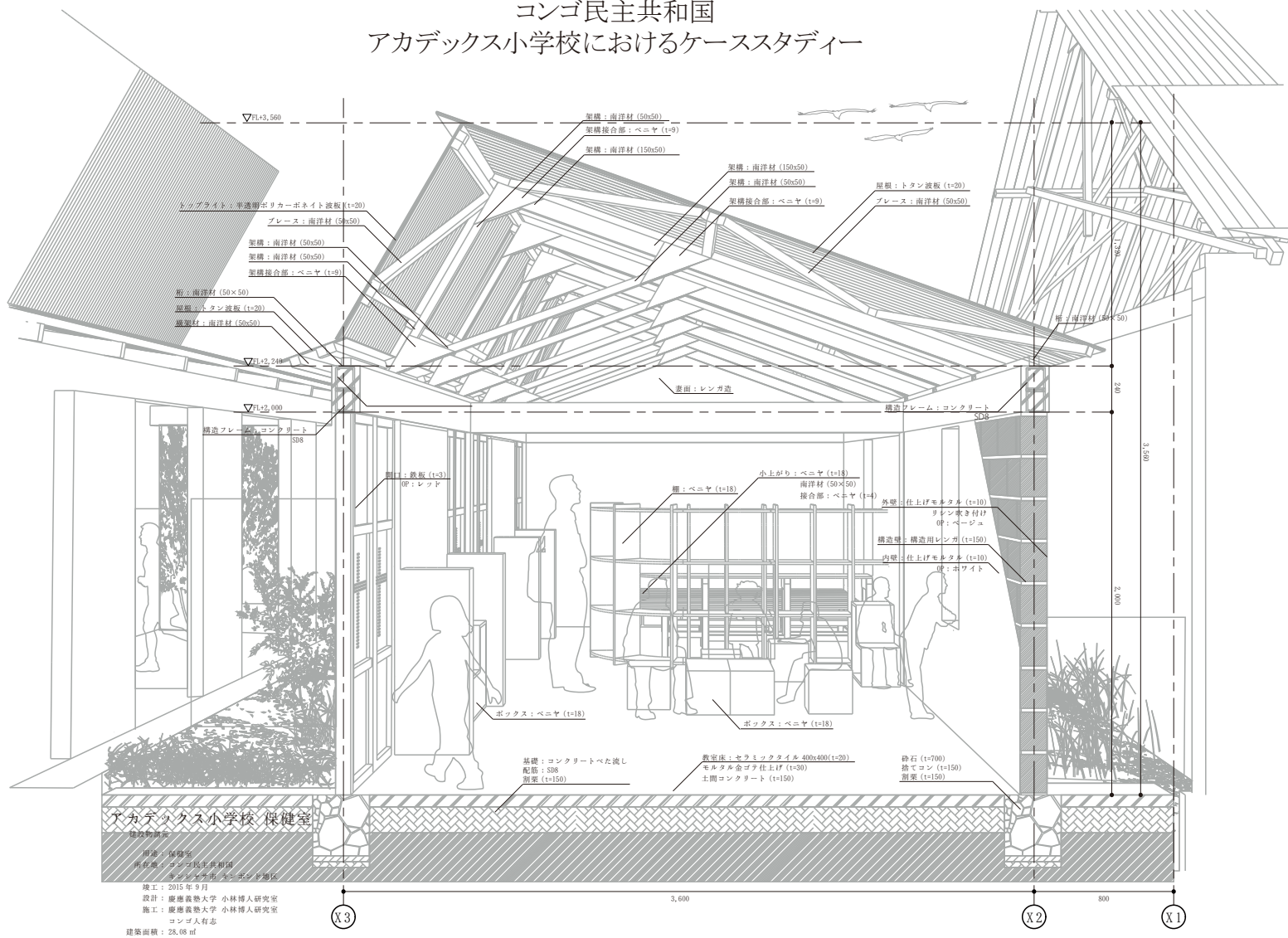


木質系材料を使用したセルフビルドの可能性
- エクアドルとコンゴ民主共和国でのケーススタディー -

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
修士1年 西尾大河

コンゴ民主共和国 アカデックス小学校におけるケーススタディー



エクアドル地震復興住宅におけるケーススタディー

本研究の目的は、エクアドル地震の被災地であるエスメラルダス州、マンタ州、マナビ州において、デジタルファブリケーションを用いながらも現地の建築資材および構法を尊重しだれもが参加可能な「開かれたセルフビルド」の可能性を探究するものである。研究手法は第一段階として実際に現地へ赴き被害状況を調査するとともに、各州知事、ラテンアメリカ大学の教員、木材加工会社Botrosaのスタッフと情報共有を行い、中長期的な復興計画を検討する。第二段階としてラテンアメリカ大学の教員、木材加工会社Botrosaのスタッフとともにワークショップ形式でモックアップおよびプロトタイプを作製し、最終段階として実際に被災地で現地住民とともにセルフビルドで仮設住宅の建設を行う。本研究がなされることにより、再建の布石となり得る、“持続可能な”仮設建築が実現されることが予想される。

